

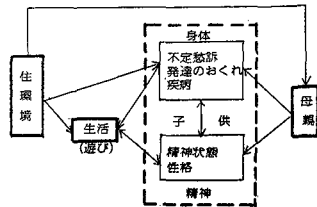
D 14 住環境と子供の健康度 (その4) 3才児について
 大阪市大 北浦ひろる

1. 都市における住環境の変化は子供の心身両面での健康に影響し、数々の問題の原因となつていふと考えられる。そこで、その間の関係を因の如く分析、把握し、住環境に起因する問題を追究した。(チェックリスト作成の詳細については(その1)~(その2)参照のこと。)

2. 調査は小学1年生と3才児に対して行つた。本論では3才児の結果について述べる。3才児では性格テストは実施せず、生活遊び要因13、精神的な健康要因61、身体的な健康要因65、母親心身不健康要因66及び住環境要因65(内即49、外部14)の設問

を設定し、アンケート調査及び採病の20項目について13才児検診結果を用いてそれらを充たし、調査は大阪市内の23の保健所で3才児検診時に母親に対して行つたもので、有効数683を得た。これらを住環境によつて4つに分け、住環境の実態と子供の心身健康状態の関係をみた。次いで数値化されたものを用いて分析し、住環境に支配されやすい心身の状態を求めた。

3. 分析の結果、3才児では精神的な健康度と身体的な健康度の各要因間の相関よりも母親の要因との相関が強くみられた。特に母親の養育不安定度数と3才児の精神負荷度数の関係がめだつていた。又、住居地域の子供は他地域に比べ採病度も少なく、めだつた発達の遅れも少なく、比較的安定していた。数値化の分析結果、住環境の中では構造や室内気候、衛生状態、アトピー性皮膚炎、風邪、せいせいのしやすさ、鼻炎、ぜん息、湿疹、アレルギー等にはおのづからみられた。居住性、住宅の広さ、振動、騒音等も各種採病と関連のみみられた。



住環境と子供の健康